

地域の宝はシニアの力 いきいきと活躍できる居場所であれ

特定非営利活動法人 びば!! 南三陸

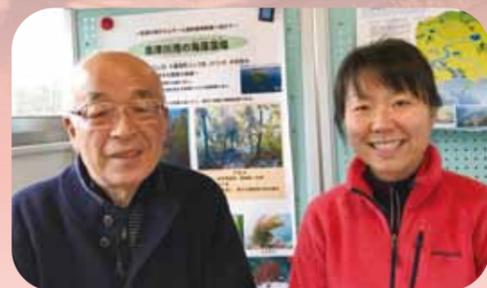


7割が森林の南三陸町ですが、農業、水産業、林業、そして観光業が盛んです。その担い手は、60歳を過ぎたシニア層も多く、現役で働いている町民も少なくありません。しかし、確実に少子高齢化は進んでいます。地域活動の担い手や福祉の現場では担い手がなく、人手不足が常態化しています。これでは高齢化していく地域のケアを誰がするのか心配です。だからこそ、元気な高齢者の活躍や、介護保険のお世話にならないよういつまでも元気で暮らすための取り組みが必要なのです。

そのシニアの活動の場を作っているのが、NPO 法人びば!! 南三陸です。老若男女問わず学びの場を提供するほか、町民からの要望にシニアが仕事として応えるつなぎの場になっています。

震災前の人口は17,666人、現在の人口は13,242人と激減していますが、課題は3割を超える高齢化率。復興に向かって重要なカギを握るのが、60歳後半から70歳代のシニア層の動きです。以前、南三陸町には「南三陸町シルバー人材センター」があり、高齢者の得意な仕事や分野を活かした仕事を斡旋していました。町内の多くのシニア層が参加し、シルバー人材センターからマッチングされる仕事に生きがいをもって活動していました。

活動は、草刈りや植木の剪定、お墓掃除、襖の張替え、賞状の名前書き、漁業関係の加工場での軽作業など多岐にわたっていました。しかし、震災がきっかけでメンバーが減り、組織を維持できなくなったことから2012年10月に解散しました。解散後は、南三陸町の元気な高齢者が長年培ってきた知恵や技術を活かす場や元会員の交流の場として「いぶし銀倶楽部」の活動を続け、約1年後には、(国際協力 NGO) 認定 NPO 法人ピースウィンズ・ジャパン (=PWJ) の支援を受けて、その事務局となる任意団体のびば!! 南三陸を立ち上げました。



理事長 勝倉 彌司夫さん 事務局スタッフ 西城 幸江さん
かつくら やすお さいじょう さちえ

集える拠点「晴谷驛（ハレバレー）」

びば!! 南三陸の中心的活動を担っている事務局スタッフの西城幸江さんは、PWJからの出向職員です。PWJは、世界各地の紛争や自然災害によって生命を脅かされた人や、貧困に苦しむ人などを支援するために1996年に設立された団体です。今回の大震災でも、発災翌日から不足する物資の配布をはじめ、地域の商工会や漁協等と協力した経済復興支援、子どもたちや高齢者の心のケア、地域コミュニティの活性化などの支援活動をしています。南三陸町生まれの西城さんは、進学のために中学卒業後に町を離れましたが、震災をきっかけに南三陸町に戻り、震災前の活気ある故郷を取り戻すために働きたい!と考へて、南三陸町で支援活動をしていたPWJに就職しました。

びば!! 南三陸の事務局は、当初PWJのプレハブ事務所の一部で活動していましたが、徐々に活動の輪が広が



▲晴谷驛（ハレバレー）内部の広場



▲木工ワークショップの風景

り、参加人数や活動に使用する機材や道具も増えてきたことから、各地区の公民館や集会場、ポータルセンターなどを借りて活動や講座を続けていました。しかし、高齢者の皆さんがいつでも安心して集え、楽しい活動を通じて地域に貢献できる場が必要と考え、PWJと協働で事務局機能を持った拠点となる施設をつくることにしました。建設資金は、PWJからの支援に加え、寄付金を集め、2015年7月、南三陸町入谷に施設「晴谷驛（ハレバレー）」ができました。名称は、「晴」れやかな顔で活動し、拠点を置く入谷の「谷＝バレー」、多くの人が賑やかに交錯・交流する「駅（プラットフォーム）」のようになったら、という願いからつけられています。びば!! 南三陸は、同年7月30日にNPO法人化し、拠点で様々な講座や活動などの企画を展開しています。

高齢者が元気に活躍できる場が復興につながる

「ハレバレー」は、みんなが楽しく集える「あそびば」、みんなが楽しく学びあえる「まなびば」、みんなが楽しく学び、遊ぶことを通じて地域の人同士の「むすびば」と3つの場の提供を目的に作られ、地域の皆さんが豊かな知識、経験、技能を活用して「生きがい」「社会貢献」「健康維持・増進」「仲間づくり」の喜びを得てほしいと、びば!! 南三陸理事長の勝倉彌司夫さんは、期待しています。

現在、ハレバレーでの企画事業は、陶芸や木工、エコクラフトなどの講座のほか、月に1度は視察研修を実施。講座には会員を中心に毎回10名前後の受講者があり、受講料は300円～500円です。この金額では拠点の維持費や西城さんを除く常勤のスタッフの人件費などの経費は賄えず、現状では、民間の助成金や行政からの補助金で実施しています。

今後、以前のシルバー人材センターのように仕事の依頼に応える活動を増やしていきたいという計画はありますが、会員数は、以前の半以下の約70名、その8割が女性という構成では、これまでの草刈りや植栽の手入れなどが多い作業内容では対応が難しい、と勝倉さんは話します。

経験とネットワークがつなぐ仕事づくり

昨年の9月、南三陸町役場新庁舎が完成し、「開かれた町役場、住民に親しまれる町役場、気軽な町役場」を掲げ、庁舎入り口エリアに「マチドマ」と名付けた町民と町との協働空間を南三陸町が設けました。この一角に「マチドマカフェ」が設置され、その運営をびば!! 南三陸が担うことになりました。マチドマに町民が集い、交流する場としたい南三陸町と、地域の住民が気軽に行ける居場所を作りたいというNPOの想いが合致し、それぞれの情報や資源を基に話し合いを続け、オープンに至りました。まさに協働のカフェです。町の業務開始から1ヶ月遅れの10月2日にオープンしましたが、町職員や来庁した町民にも徐々に利用してもらえるようになり、安定した経営ができるよう目指しています。

カフェは、PWJが支援する東ティモール産の美味しいコーヒーと、生きがい対策や社会参画を目的としてスタッフがびば!! 南三陸の会員さんや子育て世代のお母さんであることが特徴です。

NPO 法人びば!! 南三陸は、役員や会員など特定の地域に限定せず町内の人たちの参加により組織されているからこそコミュニティとの関係が上手く機能し、地元町民からの仕事の依頼も増える傾向にあります。法人としては元気な高齢者にいつまでも地域に役立つ機会を提供し、生きがいにつなげていきたいと考えています。

まさに「晴谷驛（ハレバレー）」は、高齢者にとって学ぶ場であり、仕事を得る場であるなど、南三陸町の新たなシルバー人材センターとしての役割が期待されています。

特定非営利活動法人 びば!! 南三陸

<問合せ先>
〒986-0782 本吉郡南三陸町入谷字鏡石4-1
TEL▶0226-25-8080 FAX▶0226-25-8400
E-mail▶info.viva373@gmail.com
URL▶https://www.viva373.com/
https://www.facebook.com/viva373